

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4291500066		
法人名	一般社団法人 島宝		
事業所名	グループホーム おぢかの家		
所在地	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷1466番地1		
自己評価作成日	平成30年2月8日	評価結果市町村受理日	平成30年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年3月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームおぢかの家は、陽当たりも良く、周りの環境にも恵まれています。地域の行事やイベントにも積極的に参加し、地域の方々からたくさん声をかけていただいたり、野菜や魚なども差し入れもよくあり、年末のホーム主催の餅つきではたくさんのボランティアの方に参加してもらってます。地域の方々からたくさん支えられ、御家族や地域の方々や職員と一緒に、御利用者の方を支援、安心して過ごせる環境を作っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは小値賀港から程近い場所に位置している。ホームの近隣には公民館があり、入居者が地域の公民館活動に気軽に参加されている。ホームでの入居者の生活は島であるからその地域との繋がりが密にあり、入居者は入居以前と変わらない地域住民や知人との交流がある。ホームでは地域住民から新鮮な魚や野菜の差し入れが豊富にあり、入居者は刺身や野菜を味わいながら旬の食材を目にする事で季節への関心にも繋がっている。代表者は地域に向けて認知症の勉強会や講座を実施しホームの理解にも繋がっており、次年度も継続して開催する予定である。地域柄静かな環境のもとで、ホームの特性を活かしたケアを実践し、他事業所との互助関係も大切にしながケアの質の向上を図っている。島民運動会にはリレーに参加し、職員や家族でチームを構成するなど、地域と一体化を図り、垣根がない風通しの良いホームと言える。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームおぢかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念</b> 4291500066					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の朝礼で、職員全員で理念を唱和し、全職員が理念を覚えており、理念を共有して実践につなげている。	毎週月曜日に朝礼で理念の唱和を行っている。3つの理念を文書化し、全職員が把握できるよう努めている。	職員は理念について記憶できている。更に理念の具体的な実践として理念を職員個人の年間目標に落とし込み、日々の支援に意識付けし、定期的に管理者と目標達成状況を振り返りながら取り組むことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事は職員、利用者様全員で参加し、地域の方々にたくさん声をかけていただいたり、地区の敬老会にも呼んでいただいて交流している。	入居者は以前から島内の住民であり、地域柄顔見知りや何らかの繋がりがある。地域の行事に入居者全員が参加することでホームの理解を得ることができ、地区住民として地域に溶け込み、入居者は地域に見守られながら地域行事にも楽しんで参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	おぢかの家主催で、地域の方々に向けて認知症の勉強会を行ったり、おぢかの家の代表が地区の公民館にて高齢者向けに認知症の講座を行なった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で状況報告を行ない、意見交換しサービスに活かしている。	運営推進会議議事録は入居者の状況や報告内容詳細を記述し、質疑応答も欠席者や家族が理解しやすいよう記録している。会議ではホームで発生したヒヤリハットの報告もなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の職員から認知症の方についての相談などもあり、行政の会議にも積極的に参加して協力関係を築いている。	小値賀町福祉事務所所長をはじめとする行政関係者が参加する地域包括ケア会議に代表者が参加し、地域包括ケアシステム等に関しての検討を行っているほか月1回介護保険事業報告を行っており、行政との協力体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず自由に行き来できる環境づくりを行ない、職員が身体拘束廃止推進員養成研修を受講し、カンファレンスで研修報告を行ない、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者は、毎年、県高齢者権利擁護推進員養成研修を受講している。ホームでは認知症指導者を講師として招き、身体拘束の研修を実施し、身体拘束についての内容を習得できるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にも参加したり、ケア会議等で適切ケアなケアについての話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修会に参加して学び、必要がある場合には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の方針や重要事項を利用者や家族に十分な説明を行なって理解・納得していただき、また疑問がある時にはその都度説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には常に要望などないか聞いており、御家族の方にも来所された際などに意見や要望がないか聞き、意見や要望があればケア会議や朝礼などで全職員話し合いを行ない、運営に反映させている。	入居者への要望等は日頃の会話の中で聞き取るよう努めている。家族からは面会時や報告時に聞き取りを行い、ケア会議等で聞き取った意見の情報共有を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りの時やケア会議の時、また個別にも意見や提案してもらえらる機会を作り、年2回個別面談を行なっている。	月1回会議を実施し、ケアについて職員が提案したことを実践に結び付けるよう取り組んでいる。事例として、以前、歩行には手引きが必要な入居者について歩行器を使用することで自立ができるのではないかと職員の意見があり、歩行器使用を試み、歩行の自立が実現できたことが窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日現場に入り、職員の不満やストレスの要因についても気を配り、各職員がやりがいを持って働きやすい環境作りを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム主催の研修会や外部の研修会にできる限り参加してもらい、研修報告をして全職員が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おぢかの家主催の研修会を行なった際には他の同業者と一緒に勉強できる環境を作り、また外部の研修会でも一緒に学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、ホームに來所して雰囲気を感じてもらい、利用者御本人と御家族に面会し状況を理解するよう努めて安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には、御本人や御家族の要望を聞き、御家族が島外にいる際にも電話で要望や不安に思っていることを何度も尋ね、來島した際にも話し合う機会を作って関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族がいま必要としていることを聞きながら、事業所でできることを十分に話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な支援にならないようにホームで共に生活する一員として職員と御利用者が第二の家族のような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は御家族の方とも信頼関係を築き、御家族と職員が共に御本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人や友人と出会える地域の行事に参加したり、地域を散歩したりして交流したり、またホームに來られたりされている。希望があれば一緒に同行して外出している。	地域行事に参加し、入居前からの顔見知りや馴染みの方との繋がりを継続されている。ホーム周辺を散歩する際に入居者の顔を見て地域住民が声をかけて立ち話をするなど、地域ならではの馴染みの関係継続ができています。地域の運動会には手作り弁当を持参し、入居者全員が参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームに入所前から馴染みの関係や知人だったりされており、御利用者同士が支え合っている場面も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御利用者のサービスが終了された御家族の方とも関係を大切に継続的なお付き合いをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人本位ということを第一に考え、希望や意向の把握に努め、困難な場合は御本人にとってどのようなケアが良いか日々の気づきなどをケア会議で話し合っている。	職員は入居者との日頃のコミュニケーション時や家族には面会時に意向の聞き取りを行っているが、家族からの意向については聞き取りづらい面も窺える。発語が困難な入居者には日頃の生活状況から思いを汲み取るよう努め支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族との話し合いの中で生活歴や環境、経過を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者一人一人の状態を把握し、御自分で出来る事はしていただき、見守りながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族からの要望を聞き、ケア会議で職員全員で話し合いを行ない、それを介護計画に活かしている。	職員は入居者への担当制をとり、入居者のアセスメント記録やモニタリングを行い、見直し時に職員全員でカンファレンスを実施し、計画作成担当者が内容をまとめ、ケアプラン作成に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別に記録し、申し送りで全職員で共有し、また気づきなどがあればケア会議でも話し合いを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の要望に添えるよう、可能な限り柔軟な支援やサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方にも来ていただき、地域の敬老会にも呼んでもらったりして、地域の方に支えてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は職員が同行し、状態の変化があれば家族に報告を行なっている。必要に応じて往診も来ていただいている。	ホームでは、循環器科、整形外科、精神科は月1回専門医の受診、眼科は月1回福岡からの小値賀の担当医師の診療を受けている。状況に応じてかかりつけ医である診療所からの往診を受けることもできる。受診は職員が同行支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、健康状態のチェックを行ない、体調に変化があれば看護師に相談し、受診できるを受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御本人や御家族の希望を聞きながら、医療機関とも協議し、早期退院ができるように情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人や御家族の意向を踏まえながら、御本人や御家族、関係機関とも何度も話し合いを行ない、ホームで出来る事を十分に説明し、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。	入居時にホームでできることやできないことを本人や家族に説明し、食事等が摂取できなくなった場合には家族の希望に応じ、医療施設に受け入れを依頼するか、医療的措置を望まない家族には意思を尊重し、ホームで看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	御利用者の急変や事故発生時の対応についてのマニュアルを作成し、全職員が実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署と地域の消防団の協力を得て避難訓練を実施したり、地域との協力体制を築き、毎日防火自主点検を行ない不備などがないようにチェックを行なっている。	日勤者が避難経路、ガス器具等の劣化、台所火気周り、ホーム周辺の巡回等を毎日自主点検を行い、自主点検表に記録している。消防署立会い、消防団の協力の下、避難訓練を実施している。	実践の中で有事の際の取り組みが意識付けよう、日ごろより初期消火、避難誘導、通報の役割分担を取り決めておくと共に災害用備蓄一覧表を作成することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人の人格を尊重し大切にしながら、さりげない言葉かけや対応を心がけてケアを行っている。	職員は排泄時の声掛けや失禁時には他の入居者には気づかれないような言葉掛けと誘導を行なっている。	トイレの棚上に個人の姓名を記載し貼付したパッド等を保管するかごを設置している。個人のプライバシー確保のため、他者の視線に入らないよう更なる工夫に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いや希望を大切に、さりげない言動などに気を配りながら、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、できる限り御本人の気持ちを尊重しながら、その人らしく暮らしていけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望があれば、御本人の馴染みの理容室に出かけたり、身だしなみも本人が選択できるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえで御利用者ができることがあれば手伝っていただき、食後もテーブル拭きもしていただいている。	地域住民からの野菜や魚の差し入れが豊富にあり、新鮮で季節を感じる事ができる食事作りがなされている。入居者は食材の下拵えやテーブル拭き、おやつ配膳のほか、ひな祭りには職員と共に巻きずしを作っている。献立は代表者及び管理者が1週間交代で作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者一人一人の体調と摂取量など職員が把握しており、体調に応じてお粥を提供したり、嫌いなメニューの時は個別にメニューを提供できるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けし見守りながら毎食後口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は御利用者一人一人の排泄パターンを把握しており、一人一人に応じたトイレ誘導や声掛けを行なって見守りしている。	ホームでは排泄チェック表を作成し、排泄状況を記録することで入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個人別の排泄支援を実地している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録に排泄を記録し、便秘気味の方には飲み物や乳製品を飲んでもらったり、御本人が処方されている下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりがゆっくり入浴できるように個別に入浴を行ない、楽しみながら入浴できるように支援し、御本人や御家族の希望がある場合には入浴日でなくても入浴してもらうように支援している。	各入居者が週2回の入浴実施ではあるが、本人の希望があればその日に限らず入浴できるよう支援している。一人で入浴することに不安がある入居者には職員と一緒に入浴することでの支援もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	頭痛がある方がいた時にはバイタルチェック後に居室で横になっていただいたり、また自由に居室で横になってもらったりしている。寝つきが悪い御利用者の方に対しては日中の活動を工夫し、出来る限り眠剤を使わないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際に職員が同行し主治医に薬について確認し、薬の変更がある場合も病院受診ノートに記載し申し送りの徹底を行なっている。薬の文献は個別ファイルに保管し、全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を職員は把握し、お願いできそうな仕事があれば無理のない程度にお願いしながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば積極的に外出したり、天気が良い日はドライブや散歩に出かけている。散歩に行かれた時には地域の方に声をかけていただいたりして地域の方と共に支えていると実感している。	ホームでは入居者の希望で散歩や買い物に出かけたり、外出には柔軟な支援ができています。ホームの近くにある神社には桜が咲き、この時季は全入居者で花見に行くことができる。スケジュールに拘らず好天候日には島内のドライブに出かける等の外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得てお金をもっている御利用者の方もおられ、希望があれば一緒に外出して買い物をしたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や郵便物が届いた時には、御本人にお礼の電話をしてもらったりしている。また、島外の御家族の方からも自由に電話かけてもらうような環境づくりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは陽当たりも良く、共同の空間は御利用者の方にとって居心地よく過ごせるようにしている。また、季節に応じて飾りつけを皆さんで作って飾っている。	ホームの天窗からは自然の光がフロアを明るく照らし、その下で入居者は食事を楽しんだり、昼食後の時間をゆっくりと寛いで過ごされている。入居者が職員と共に作成した季節の壁画を飾り付けており、居心地良く過ごすことのできる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き、ゆっくりと過ごしてもらい気の合う御利用者同士が隣に座り雑談されたりして過ごされておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来る限り使い慣れた家具や馴染みの物を持ってきてもらうようにしており、居心地よく過ごせるようにしている。	入居者の居室は、入居時に以前から使用していた馴染みの寝具やたんす等を持ち込んでいる。ホームでは以前の生活の延長として暮らせる環境の整備に努め、入居者が安心して生活し、不穏や混乱の回避に繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者が混乱しないように浴室やトイレや居室の入り口には名札をつけてわかりやすくし、状況に応じて環境づくりに努めている。		